情報倫理とメディアリテラシー

教材開発研究所
湯浅　聖記

目次

1. ネットワーク社会
2. ユビキタス環境
3. ネットワーク社会のルールとマナー
4. メディアリテラシー
5. 情報倫理

ネットワーク社会

- 携帯電話
- コンピュータ
- テレビ
- 家電
- カーナビ

など

ネットワーク → 新たなコミュニケーションの場

ユビキタス環境

「ユビキタス」

↓

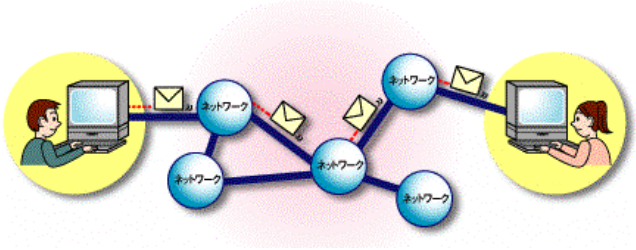
古いラテン語
「どこにでもある」の意味

ユビキタス環境

↓

「いつでも」「どこでも」「なんでも」接続できる環境

ネットワーク社会のルールとマナー



- 多くの管理者の善意によって維持、更新
- 人に迷惑や不安がらせるような行為を行わないこと
- 何より相手に対する思いやりが重要
- 危険なところや怪しいところには行かないこと

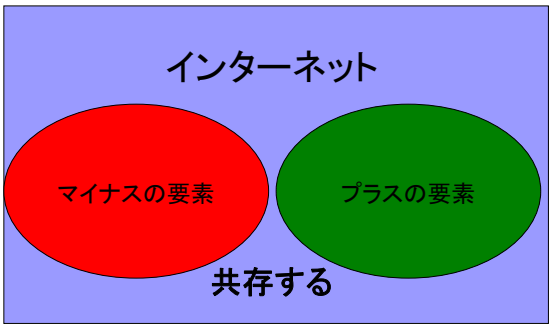
インターネットの問題点

- 手軽に色々な情報検索が可能
  - アダルトサイトや自殺幇助のサイトに手軽に接続可能
  - 違法サイトや違法取引場に引き込まれやすい
  - 個人情報流出の舞台
- 悪意のあるユーザが存在する
  - 善意のユーザにもウィルスが届く
  - 不正侵入を試みるユーザがいる

インターネット・セキュリティ

- ユーザIDとパスワードの不正取得
- コンピュータウィルス
- システムへの不正侵入
- システムダウン
- 情報漏洩対策
- 情報の改ざん
- 通信内容の盗聴・傍受

メディアリテラシー



善悪の判断と情報の信憑性の判断

メディア・リテラシー

メディア・リテラシー1

メディア・リテラシー ＝「メディア」＋「リテラシー」

メディア
- 新聞
- 雑誌
- テレビ
- ラジオ
- インターネットなど

リテラシー　「読み取る能力」と「書く能力」

メディア・リテラシー

↓

信憑性が高く、信頼性のある「情報」を探し出す力

メディア・リテラシー2

- Webページの閲覧だけでは身につかない
- 友人間だけの電子メールのみでも身につかない

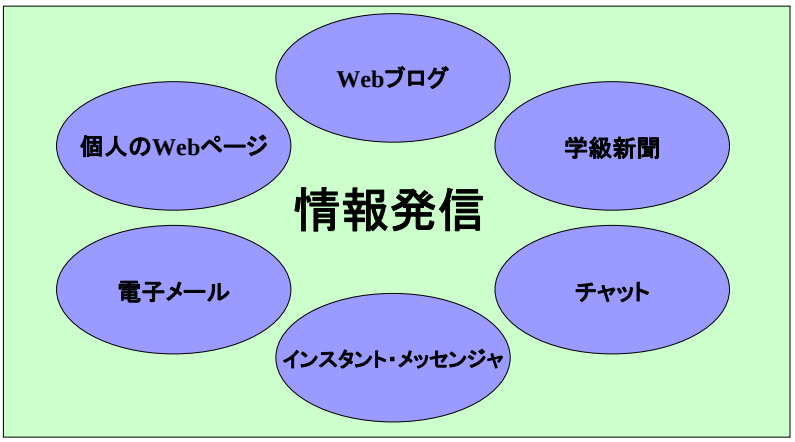
↓

情報の信憑性を誰かに投げかけ真意を得る

メディアリテラシーに関する問題

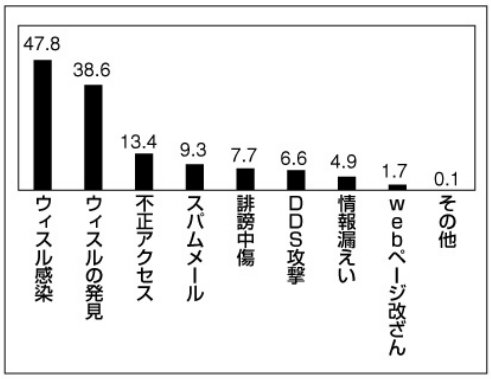
- 他人の著作物を公開すると訴訟問題になる
- キャラクタが似ていると非難の対象になる
- 誹謗中傷も批判の対象になる
- 個人情報を掲載するといたずらされる可能性がある

メディア・リテラシーの能力



他人に同感や批判を繰り返すことで、メディアリテラシーが身につく

システムの脅威1



平成17年版　情報通信白書より

システムへ悪影響を与えるもの → **天災と人災**

システムの脅威2

- 外部からの不正アクセス
- 内部からの不正アクセス
- コンピュータウィルス
- 操作ミスや処理ミス
- 偶発的に起こる事故

インターネット関連犯罪

- 個人情報の流用
- 携帯電話による犯罪
- ネット詐欺
- 知的財産権の侵害
- 電子メールを利用した犯罪
- 誹謗中傷
- 不正アクセス
- 公序良俗に反する情報の公開・配布
- 違法販売
- 自殺ほう助
- ねずみ講

新たな脅威

- ワーム
- スパムメール
- スパイウェア
- フィッシング詐欺
- ファーミング
- クロスサイトスクリプティング

マルウェア

- コンピュータウィルス(Computer Virus)
- ワーム(Worm)
- トロイの木馬(Trojan Horse)
- スパイウェア・アドウェア(Spyware, Adware)
- デマウィルス

ウィルスの届出件数（年別）

年	届出件数（件）	年	届出件数（件）
1990	14	1998	2,035
1991	57	1999	3,645
1992	253	2000	11,109
1993	897	2001	24,261
1994	1,127	2002	20,352
1995	668	2003	17,425
1996	755	2004	52,151
1997	2,391	2005	28,265

（IPA, 2005年）

主な感染経路

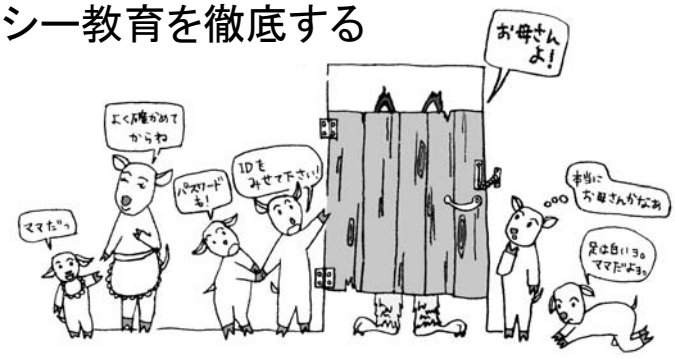
2004年度のデータ

感染経路	届出件数	割合（%）	届出件数	割合（%）
電子メール	4,477	98.7	4,850	98.4
ネットワーク	43	0.9	57	1.2
ブラウジング	4	0.7	9	0.2
外部メディア	3	0.1	4	0.1
不明・その他	9	0.2	8	0.2
合計	4,536		4,928	

（IPA, 2005年）

個人のセキュリティ対策

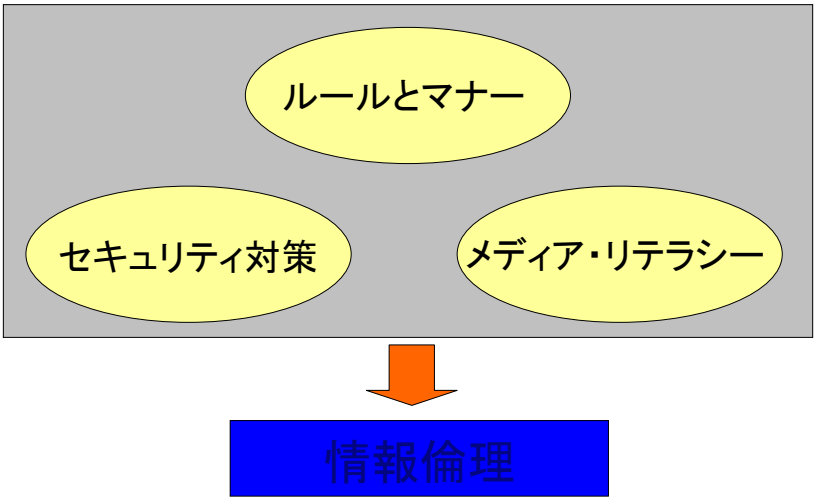
- ユーザIDとパスワードの管理
- 自宅のコンピュータのウィルスに注意を促す
- 情報リテラシー教育を徹底する



セキュリティ対策

- ウィルス対策を取る
- サーバのアクセス権の設定を厳密に行う
- ユーザ認証をしっかり行う
- セキュリティホールを埋める
- バックアップ体制の作成
- ファイアウォールの導入
- セキュリティポリシーの策定
- 危機管理体制の策定

情報倫理1



情報倫理2

- 他人の誹謗中傷を行ってはいけません。
- 知り得た情報を勝手に他人に転送してもいけません。
- 他人のコンピュータに不正にアクセスしてはいけません。
- 間違っている情報を発信してはいけない。
- 不愉快なメールにも冷静に対応する
- 自分の発言に責任を持つ

まとめ

ネットワーク社会で生き抜くためには次の3つが重要である。

1.ネットワーク社会でのルールとマナー
2.メディアリテラシー
3.セキュリティ対策

参考書籍

- 近代科学社
- 1，800円
- ネットワーク技術の基礎まで学べる
- 毎日新聞社の犯罪事例を掲載
- 練習問題がある
- 授業用のスライド用意